

岡田理子 「賑々しいクリスマス」 F6 (水彩)

<作者コメント>

背景を塗りすぎないように工夫しました。可愛らしいクリスマスの雰囲気が出ていれば嬉しいです。

<喜田コメント>

クリスマスをお祝いする明るくて楽しい作品を描いていただき有難うございます。岡田さんは皆さんの作品が示されると必ず、一言コメントをしてくれます。岡田さんの「一言」で力をもらう仲間がきっと多いはずですよ。いつもありがとうございます。

さて、1月度の岡田さんの作品、背景を塗り過ぎないで、左右上部に三角形の空間を作りましたね。これが結果的に作品が底辺が広い三角形の構図になって、安心してみる事が出来るようになりました。モチーフの要素は、人形、林檎、バラ、バレシューズ、そして、西洋ヒイラギとキャンドルですが、それらが下に広がる形に配置されていて良いと思います。改善点はタイトルにふさわしく、色彩を明るく賑々しくすることです。「ブライトレッド」「ヴィリジャン」などクリスマスカラーを部分的に作品に入れて明るくします。人形のブルーももっと明るく描いてください。キャンドルの炎はもう少し大きく描いた方がよいです。



黒田重雄 「美ヶ原晩秋」 F8 (水彩)

<作者コメント>

美ヶ原高原の王ヶ頭から眺めた晩秋の風景です。逆光で黄色に輝く紅葉の唐松林上部と暗い根元のコントラスト、手前の岩との対比に興味を惹かれました。岩の描写は少しデフォルメが強すぎかと思いましたが絵としては面白さが出たのかなと考えています。

<喜田コメント>

この作品は手前の岩の面白さで存在価値が10倍UPしました。デフォルメされて描かれた岩がすべての要素を支えています。三層に仕切られた落葉松林の表現も面白くて良いと思います。ピンクに彩られた木が数本ありますが、これが作品に微妙な味付けを施しました。一番上の三層目の針葉樹林は、思い切って空にしても良いと思います。あるいは空とも見える、山とも見える、複雑な表現にしても面白いかもしれません。



遠矢慶子 「大きな鉢に春の花いっぱい」 F8 (パステル)

<作者コメント>

<喜田コメント>

大きな鉢に植えられたパンジーなどの小さな花々、可愛いですね。小さな花の「黄色」「紫」「淡オレンジ」「緑」「白」と背景の色のグラデーションの関係が最高に素敵です。

机と「くの字型」の背景のブルー、背景の橙色が洒落ています。特に上辺と下辺に一筋、橙色の部分を残したセンスは素晴らしいと思います。

構図・色彩・タッチは言う事ありません。一つだけ申せば、緑の葉の形はこの絵に限って言えば、もう少し省略したほうが良いと思います。



月川りき江 「翔べ」 27cm X 24cm (ちぎり絵)

<作者コメント>

新聞紙には真っ白がありませんので、懐紙を使いました。そのために色がついた色紙をつかいました。

<喜田コメント>

1月にふさわしい「鶴の作品」です。今にも飛翔しようとする瞬間の「鶴」を捉えた素晴らしい構図だと思います。この絵には動きを与える要素が3つあります。その3つの要素が作品に命を与えています。それらは(1)飛翔しようとする3羽の鶴の形、(2)ピアノの鍵盤のような不規則な茶色の柵、(3)湖面の波の形、です。とても良いと思います。改善点を申せば、①3羽の飛び立つ鶴の形、1羽は離水していても良いのではないかと。②鶴の脚が作る波紋を表現したい。③動きを与える3つの要素の中(1)と(2)は申し分ありません。(3)の水面の波の表現をさらに工夫したらもっと良くなると思います。また、水面の色はもう少し暗くて変化があったほうが魅力的だと思います。



武智康子 「お茶のひとつとき」 F6 (水彩)

<作者コメント>

お茶の時間に使うコーヒーセットを描きました。ただ、真っ白な陶器を描くのはとても難しいことがわかりました。私なりに考えて、淡いブルーやグレーなどを使って形や影などを描いて、真っ白な陶器を表現してみました。また、バックに濃い色を使うことも考えましたが、今回は、作品のような形で描いてみました。今度いつかご指導いただければ有り難く思います。ただ、4個の物を描く当たって、蓋を開けたりしたので、構図的にはよかったのかなとも思いますが、どうでしょうか。

<喜田コメント>

優しく暖かい作品です。白い磁器を描くのは難しいですが、この作品はとてもよく描けています。白磁に描かれた緑色の模様が、作品を描き易くしたかもしれませんね。シュガーポットのふたを立てかけてあるのも良かったのではないのでしょうか？ 一番よかったのは、卓上に置かれた4個の分離した「物」を影を使ってつなげた事です。この手法は教室で何度も勉強しました。武智さんはその技術をここで生かされました。立派です。

白い磁器に影を入れることは相当勇気がいりますが、もう少し白磁の明るい部分と暗い部分を明確に表現したらもっと良くなると思います。背景はポットの部分だけ、もう少し濃くしてみたら如何でしょうか？



筒井隆二 「師走の驚き」 F6 (水彩)

<作者コメント>

昨年末、石垣の隅に咲き残っていた朝顔を、見つけた時のものです。寒気に耐え、美しい花を咲かせるその生命力に、びっくりしました。

<喜田コメント>

12月に咲いた朝顔ですか？ これを発見した時の筒井さんは驚きと同時に感動したのではありませんか？ 今回も筒井さんの作品は筒井さんの個性がしっかりと感じられる秀作です。重なり合った葉の描きかたに正直、感心しました。どの一葉もいい加減に描かれていません。葉の1枚1枚に精魂を込めて描いたのでしょう。どの1枚も同じ葉がありません。暗い葉と葉の重なりの中から咲いた薄紫色の朝顔の花と2つの蕾の表現もキレイです。画面に広がる葉と花と蕾の構図的バランスがとても安定していますし、面白さも感じます。12月に咲く朝顔はめったにありませんが、この朝顔の茎は針金のように固いのでしょうか？ この作品の朝顔の茎は形は明快ですが、硬度が硬すぎます。形はこのままにして、色彩で柔らかさを加えてはいかががでしょうか？ 背景の表現も「師走の奇跡」を感じさせる狡猾さと重厚さが入り混じっていて面白い。



竹前義博 「四谷南元町の交番」 F6 (水彩)

<作者コメント>

いつものウォーキングの道筋にある交番です。青い屋根など、交番らしからぬ素敵なデザインです。絵を描くために写真を撮っていたら、不審者に思われたか、警官に声を掛けられました。

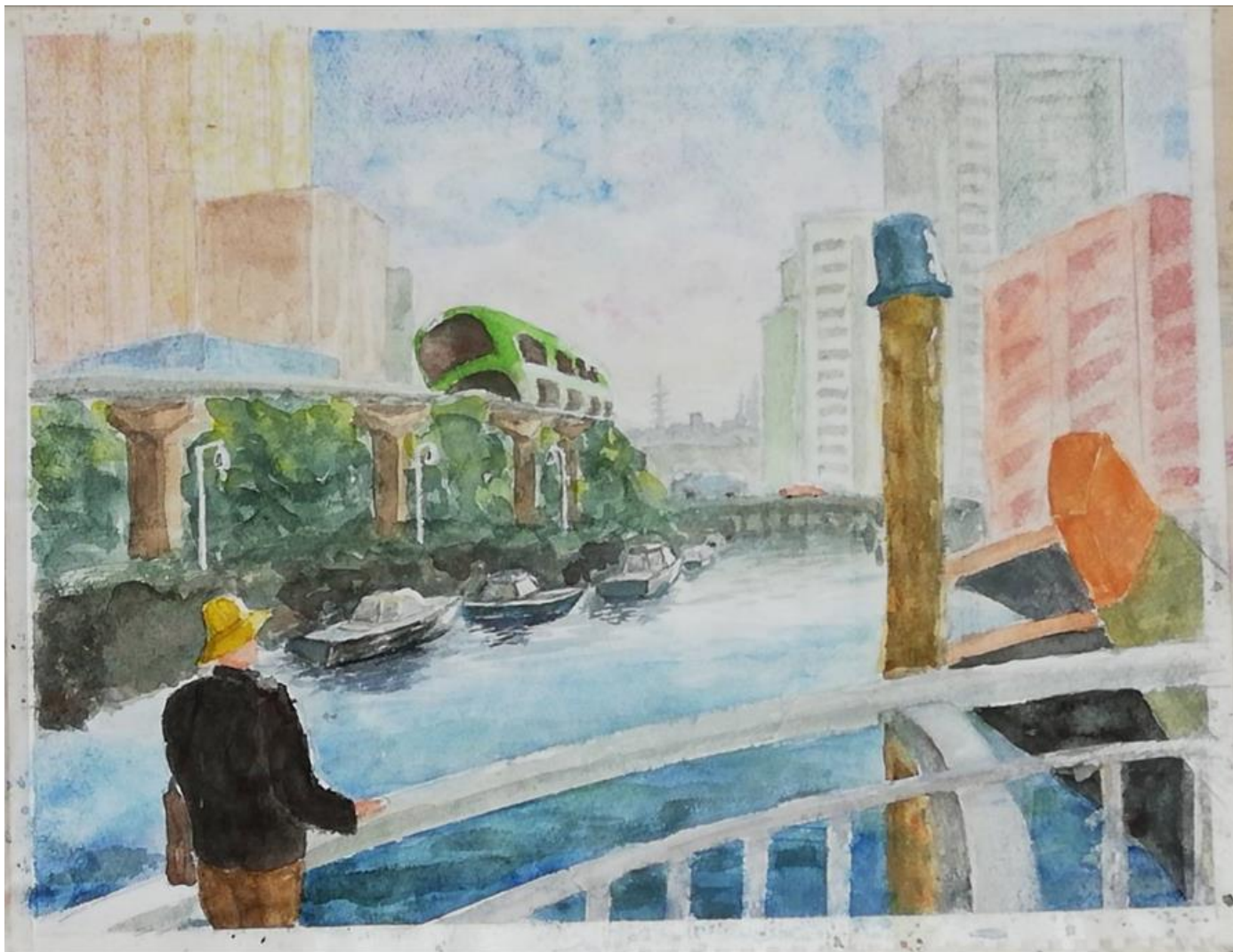
<喜田コメント>

四谷の交番らしくない交番の有る風景を描いたのですかね？ 1月度の10作品の中で、竹前さんのこの作品が一番明るくて、ウキウキさせてくれます。作者の気持ちがダイレクトに伝わってきます。それは作者の気持ちの純粋さにあると思います。

さて、この作品、主題は真中の「KOBAN」ですが、手前の ①道路と、②ガードレールと、③3本の街路樹、があっはじめて絵になったと思います。脇役なくして作品は完成しないというよい例です。

主題の「KOBAN」をもっと力を込めて描いてください。エネルギーをつぎ込んでください。光が画面の左側から差していることは、街路樹の影や交番の建物の壁面を見ればわかりますが、もっと陰影を明確に描いたらよいと思います。背後の林はもう少し暗く描き、パトカーの停車している道路の表現もあいまいです。

作品とは別に「KOBAN」の写真を撮っていて「職務質問」を受けた話は面白いですね。



若林哲史 「芝浦田町運河」 F6 (水彩)

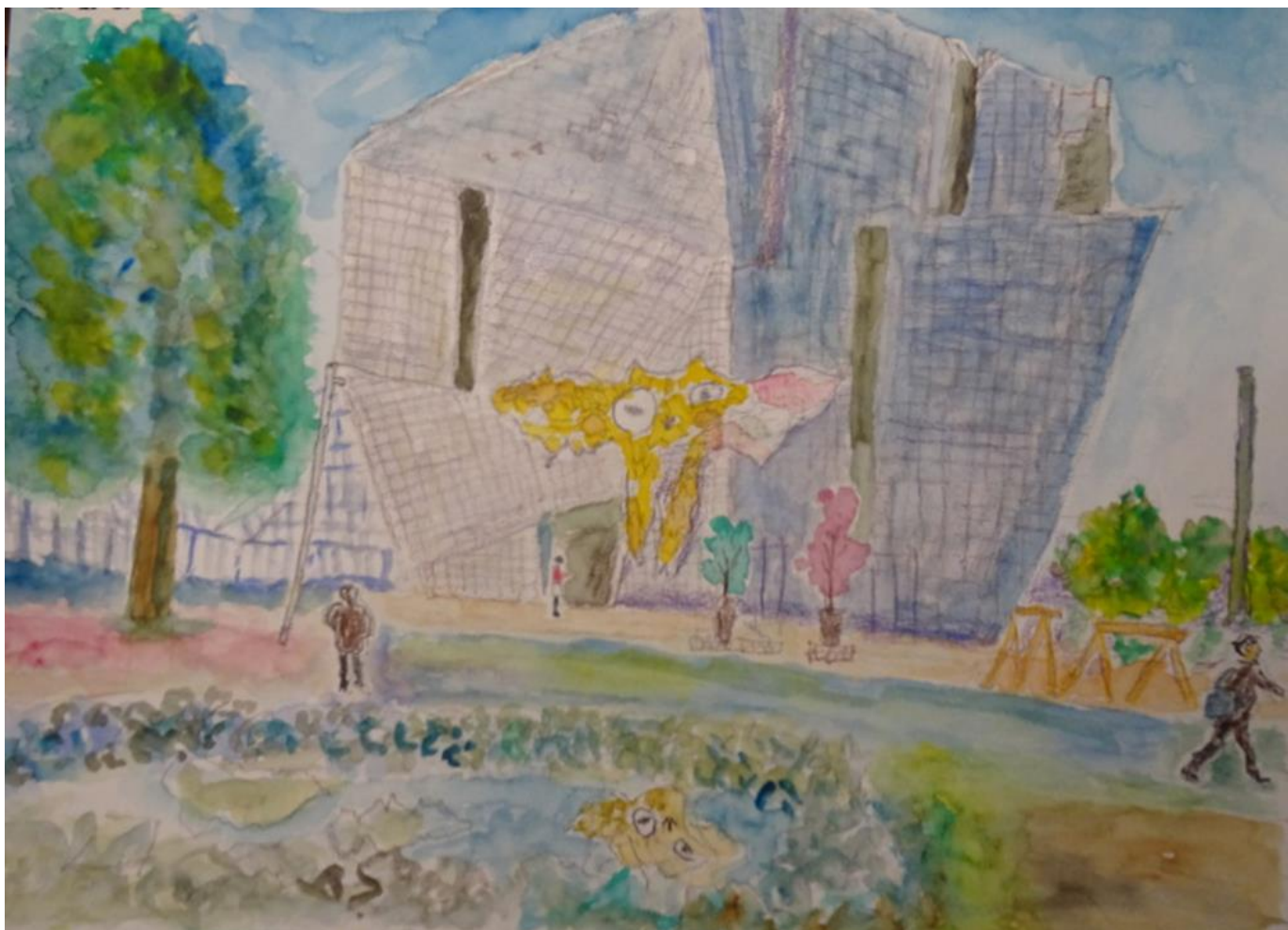
<作者コメント>

以前の作品のリメイク版です。小樽とはまた雰囲気の違い、モノレールが都心の運河にムードを添えています。用紙の保存が悪く、汚い仕上がりで、申し訳ありません。

<喜田コメント>

以前、みんなでスケッチに行った懐かしい運河風景ですね。みんなで並んで運河をスケッチしました。その時に見せて頂いた作品にちょっと手を加えて、10倍も良くなりました。

その理由は遠近の表現にあると思います。近景に①人物、②船のへさき、重なり合った船の一部、③白抜きの手すり、④水中に立った柱と天辺のバケツを描き、中景に⑤停泊する船、⑥モノレール（線路と車両）、⑦橋、そして、遠景に⑧大都市のビル群、⑨高速道路、⑩空と雲を描き分けた。これらを、(1) 色彩、(2) 濃淡、(3) マチエル、で描き分けているところがすごいと思う。構図的にみると、手前の白抜きの手すり、モノレールの線路と車両が、右上がりの曲線、一方、手すりの曲柱、船のへさきは右下がりの曲線、これに交叉して、垂直に柱が立っている。これらが絵の調子を整えているが、完全に良くバランスしているわけではなく、右上がり（左下がり）の要素が強いと感じます。モノレールの傾きは作品にスピード感を与えているが、これも、ちょっと Too much か？ これに加えて、改善点は水面の傾きを修正するところです。若林さんは「遠近の表現」においては当 Gr, の No1 ですね。



井上清彦 「角川武蔵野ミュージアム」 F4 (水彩・色鉛筆)

<作者コメント>

2020年に東所沢に開業したミュージアム。建築家・隈研吾氏設計による奇怪な石の建築物。その外観に惹かれた。外壁に描かれた「ふくろう」も、お気に入り。うまく表現できたかどうか。実際の風景に他の角度からの風景を合成して変化を付けた。その分、建物の印象を薄めたかもしれない。壁が難しく、結局、色鉛筆でごまかした。

<喜田コメント>

面白い作品ですね。

ミュージアムの壁は石造りには見えないし、フクロウも壁に描かれたフクロウではなく、壁の手前に立てた看板のように見えますが、この作品の場合、そんなことはどうでもよいです。要はこの作品は、絵全体が躍動していて踊り狂っている面白さが伝わってきます。道行く人、玄関の前で立っている人、赤い上着に係の人？が生き生きと描かれています。手前の池にフクロウの顔が映っているのですか？ 台風でフクロウの看板の一部が壊れて飛んできたように見えます(笑)。常緑樹の描きかたも色彩も井上さんらしくて、好感が持てます。石造りのミュージアムの壁面の構造が良く分かりませんが、正面の壁が1枚メクレているようにも見えます。台風一過というところか。

それやこれや、色々ありますが、「面白い」ですべて許されます。色々な色を使ってまとめたことも称賛します。



喜田祐三 「初雪の朝」 F10（油彩）

<作者コメント>

1月6日夜半から降り出した雪が、一晩で積もって、翌朝は思いがけず久しぶりの銀世界となりました。早速、私は小さなスケッチブックと色鉛筆をもって、お滝神社のはけの道まで雪道を歩いてスケッチに行きました。暮れに痛めた脚が痛くて止めようかと思いましたが、しかし、美しい雪景色を描きたくて我慢して歩きました。お滝神社の上にある「はけの道」からは政方面を急いでスケッチしました。どこかの親子3人が、私と同じようにお滝神社に来ていました。すがすがしい気持ちになりました。